

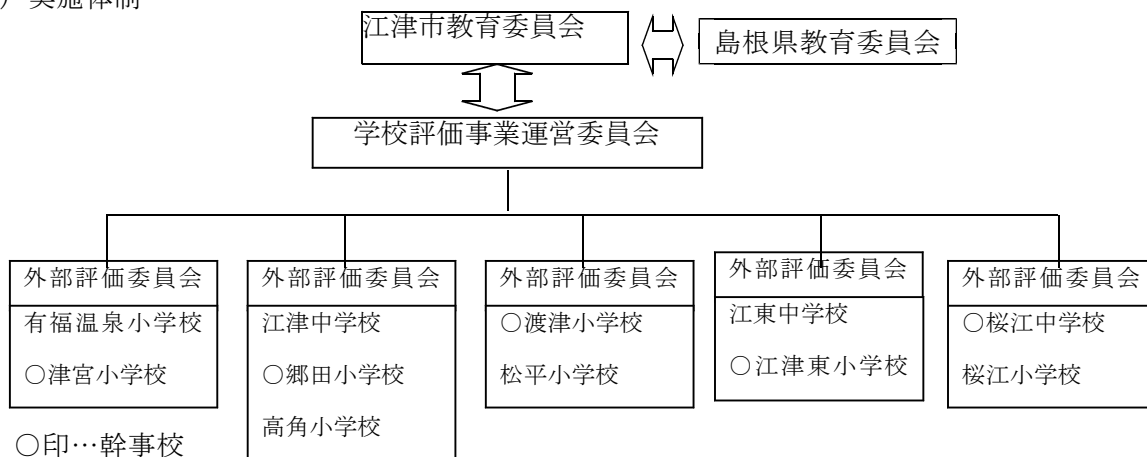
事業実施報告書

1. 事業の実施期間 平成18年 5月 9日 ～ 平成19年 3月31日

2. 都道府県における取組方法・取組内容の概要及び問題点・改善点

- ・推進地域名 江津市
- ・義務教育課ホームページ <http://www.pref.shimane.lg.jp/gimukyoiku/>

(1) 実施体制



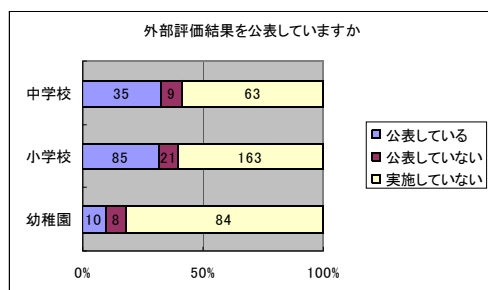
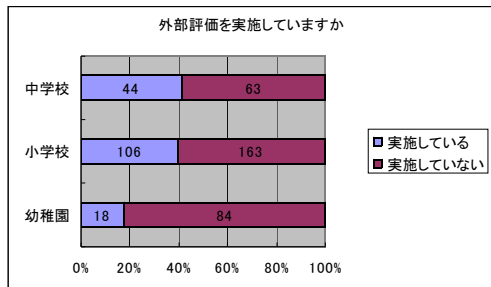
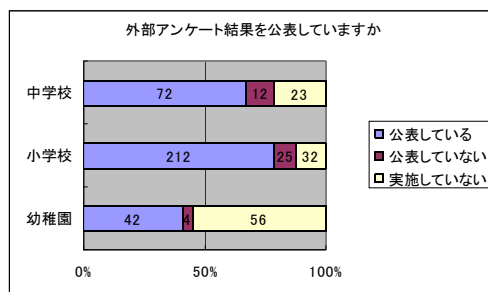
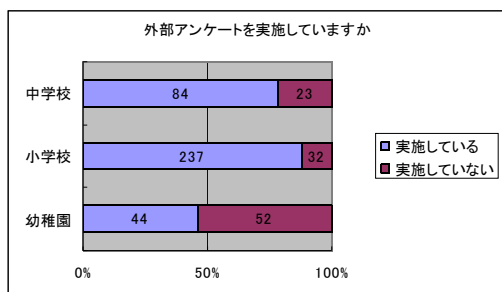
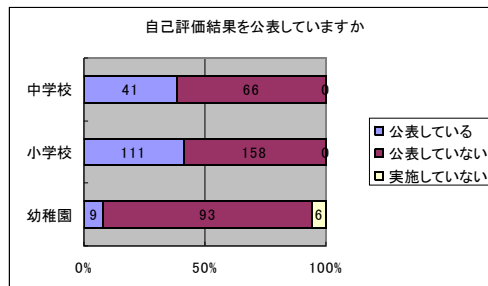
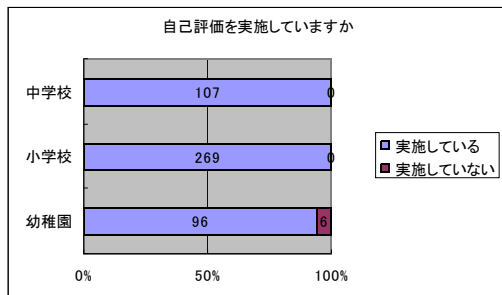
(2) 年間スケジュール（平成18年度）

月 日	内 容
5月 9日	委託契約の締結
5月10日	都道府県・指定都市教育委員会等教育水準向上担当者会議
5月中旬	学校評価実施状況調査の実施
5月下旬	校長・教頭研修会での学校評価ガイドラインの周知
5月31日	学校評価システム構築事業説明会の実施 ・江津市教育委員会説明 ・義務教育課説明 ・先進事例紹介 鳥取県米子市立淀江小学校教頭
6月～10月	江津市教委への電話による状況把握
10月23日	江津市教育委員会訪問（第三者評価）
1月24日	学校評価運営委員会に参加 ・各グループの取組発表 ・成果と課題の共有 ・学校評価報告書の作成についての協議
3月上旬	学校評価ガイドライン・パンフレットの作成
3月下旬	中間報告書の作成

(3) 取組内容の概要と問題点・改善点

① 実施状況調査の結果から

平成 18 年 5 月に実施した学校評価実施状況調査結果により、島根県における問題点が浮き彫りになった。



特に、外部評価の実施率が低いこと、公表し、改善に生かす取組が十分になされていないこと、幼稚園における学校評価の取組について啓発していく必要があることの課題あがった。

このことを受け、小・中学校管理職研修会、幼稚園研修会等で、学校評価ガイドラインに基づいた学校評価の在り方について、周知を図った。

年度末から新年度にかけて、江津市作成の冊子「学校評価報告書」(別添)、島根県教育委員会作成のパンフレット「信頼・協働 ひとみ輝く学校づくり」(別添)を県内の幼・小・中学校に配付した。今後、研修会等で活用し、各学校における学校評価システム構築に向けて周知を図っていきたいと考える。

② 推進地域との関わり

今年度、島根県教育委員会と推進地域との関わりは、年間スケジュールにあげた内容である。

特に、学校評価システム構築事業説明会の実施したこと、運営委員会に参加したことで、本事業の趣旨を確認する機会となったり、推進地域の取組状況を把握する機会となった。

その中で、協力校においては、全校体制で、自己評価シートや外部評価シートの作成に取り組んでいる様子が伺えた。

課題と改善点として、次に記す。

○推進地域において、運営委員会の発足が遅くなり、十分に機能し得なかった感がある。県の指導主事や教育事務所の指導主事が関わる必要があった。来年度は、組織の中に指導主事が加わり、積極的に関わっていきたいと考える。

○来年度は、見通しをもって計画的に事業を進めていく必要がある。今回の報告書作成に際して、協力校に来年度の年間スケジュールの提出を求めた。これをもとに、推進地域の年間スケジュールを立案し、共通理解を図って取り組んでいきたいと考える。

③ 本事業の普及に向けて

本事業の取組の成果を県内の学校に広く普及し、各学校において、積極的に学校評価システム構築に向けて取り組むことができるよう、「学校評価システムガイドライン：島根版」を作成する。そのために、年度当初から、組織作りを行い、年内には完成したいと考える。

3. 推進地域における取組方法・取組内容の概要及び問題点・改善点

(1) 取組内容及び方法

① 学校評価に先進的に取り組んでいる鳥取県米子市立淀江小学校 西村教頭を招き、協力校の校長・教頭・担当教諭を対象とした研修会を開催し、事業の推進体制や方法等について各協力校の共通理解を得た。

② 協力校（11校）を5グループに分け、各グループにそれぞれ外部評価委員会（委員7名）を設置し、第1回委員会で事業の趣旨や取組方法等を説明した。

③ 学校評価事業運営委員会でガイドラインに示す項目等を踏まえた外部評価シートの基本形を作成し、各校の目標設定等の助言・指導を行った。なお、目標設定にあたり「確かな学力の育成」「ふるさと教育の推進」「安全対応能力の向上」「学校間の連携」の4項目を推進地域の共通項目として設定した。

④ 各グループに幹事校を置き、運営委員会と連携をとる中で、進捗状況の把握や事業推進に関する

⑤ 学校評価運営委員会（平成19年1月24日開催）において、外部評価シートへの外部評価委員会意見及び改善策等の記入について助言・指導を行った。

(2) 問題点

① 初年度の取り組みで取組方法等の共通認識等の確認に時間を要したため、外部評価委員会・運営委員会の立ち上げ等の事業開始時期が少し遅れてしまった。

② 今年度は自己評価・外部評価シートを報告書としたが内容が細かくなり、一般の方には分かりづらい面もあるように思えた。

(3) 改善点

① 運営委員会と外部評価委員会及び学校等の連携を密にし、事業実施がスムーズ行える体制を作る。

② 外部評価報告書の形式を検討し、誰にでも分かりやすい報告書とする。

- (4) 地域の現状や改善状況（ガイドラインP12に記載した内容の実施結果）を示した江津市ホームページアドレス <http://www.city.gotsu.shimane.jp/>

3. 協力校の取組方法及び取組内容の概要及び問題点・改善点

(1) 取組内容及び方法

- ① 児童生徒、保護者、地域住民に対するアンケートによる意見や要望等を踏まえた自己評価書を成し、今後の学校の取組内容等を外部評価委員会に説明した。
- ② 参観日、運動会、学習発表会等の学校行事の際には外部評価委員に案内を出し、学校行事を見てもらおう。また、学校だより等をその都度送付することで、学校の状況を知らせた。
- ③ 外部評価委員は学校訪問や関係者等からの意見聴取を基に各校の自己評価が適切に行われたかどうか、学校運営の改善に向けた取り組みが適切かどうかを検証した外部評価を行い、その結果を各協力校に報告した。
- ④ 協力校は、外部評価結果を踏まえ、次年度の改善策を記入した外部評価報告書を作成し、運営委員会に提出するとともに学校だよりやホームページ等により広く公表した。

(2) 成果と改善策

- ① 開かれた学校づくりに寄与した。
 - ・教職員が協働して成果・評価指標を作成することにより、共通理解が図られ、具体的な目安をもって取り組めるようになった。
 - ・教職員と保護者・地域の方々との意識の違いが発見でき、課題が浮き彫りになった。
 - ・外部評価委員に学校の内情や努力点、課題等を理解してもらうことで、地域の方々に学校の方針を広めてもらえる基盤ができた。
 - ・学校運営について多角的・多面的に評価し、保護者や地域の方々に対して、説明・公表するシステムづくりができた。
- ② 共通理解・情報提供に努める。
 - ・評価手順の段階（企画・実施・評価・点検）において、協議の場を設定し、評価指標・基準、改善点等の精度を高めていく。
 - ・教職員間で、「評価」（P D C Aサイクル）の有効性についての認識を高め、より一層の主體的な参画を図っていく。
 - ・外部評価委員と教職員との意見交換の場を設定したり、情報提供を積極的に行ったりして、より正確な評価が得られるようにする。
 - ・外部評価シートの言葉は、専門用語を避け、理解しやすい言葉にして提示する。10項目にとらわれすぎないように焦点化し、より具体的な表現で評価指標を示す。
 - ・評価項目を改善し、誰にでも判りやすい指標等を検討する。
 - ・学校評価の公表についても分かりやすいものにしていく。

(3) 評価結果をとりまとめた文書（自己評価書等）のホームページアドレス

郷田小学校	http://www.iwami.or.jp/gouda/
渡津小学校	ホームページ作成中
江津東小学校	ホームページ作成中

松平小学校	ホームページ作成中
有福温泉小学校	http://www.iwami.or.jp/arionsho/index.htm
津宮小学校	http://www.iwami.or.jp/tunomiya/
高角小学校	http://fish.miracle.ne.jp/elsakura/
桜江小学校	ホームページ作成中
江津中学校	ホームページ作成中
江東中学校	ホームページ作成中
桜江中学校	http://fish.miracle.ne.jp/sakuraej/index.htm

4. 本事業全般に渡る調査研究の成果

- (1) 指標設定により客観的に評価することができ、具体的な目安を持つことができた。
- (2) 複数校で外部評価委員を選出したことで、学校との関係が薄い方からも直接意見を聞くことができた。
- (3) 学校教育全般、学校経営の実態、学習への取組状況、児童生徒の様子などを外部に公開しようという意識を高めることができた。

5. 学校評価ガイドラインに対する意見等

特になし。